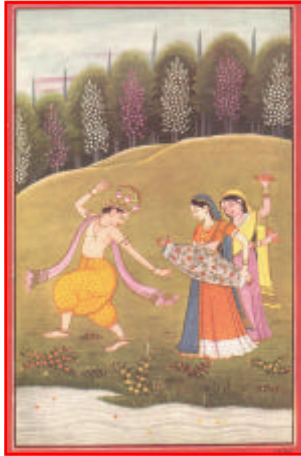


インド古典音楽と古典舞踊

心を彩るインドの音・舞



甘美なメロディと躍動感あふれるリズムが織りなす北インド古典音楽と、生きた彫刻ともよばれる東インド古典舞踊。どちらも優雅にゆったりと、時に激しく迫力いっぱい、豊かな空間をつくりだします。インド文化が育んだ音楽と舞踊それぞれの演目に加え、国内では公演されることが少ない創作による両者の共演もご披露します。演奏と舞踊にトークもおり交ぜながらの、時空を超えた官能の空間にしばし心をゆだねてみてください。

インドの音楽と舞踊

北インド古典音楽

インド・ムガル朝の宮廷音楽として発展した音楽ですが、現在ではインドのみならず世界中で多くの人に親しまれています。

季節や一日の時間帯など自然の流れとかかわりの深い音楽で、「春」「雨」「夜明け」「月光」などの数々のロマンティックなメロディがあり、演奏者は伝統的な音楽のルールをもとに、即興的に演奏を展開していきます。ゆったりとした甘美さと、手に汗握るスリリングさ、芸術性とゲーム性の両極をあわせもった音楽です。日本のこぶし・人の声のように曲線的な歌いまわしも大きな特徴のひとつです。

オリッシー 東インド古典舞踊

東インドのオリッサ州に伝わる古典舞踊で、奉納舞踊として千年前から伝えられてきました。腰を深く構えた安定感のある姿勢、曲線美を強調した柔らかい動きと所作が魅力です。

所作の一つ一つに深い意味がこめられており、彫刻を思わせるポーズが多く織り込まれていることから、別名『生きた彫刻』とも呼ばれています。現在では芸術舞踊としての価値が認められ、インド国内だけでなくヨーロッパ・アメリカでも広く紹介されています。



出演者 / プロフィール



田中 峰彦 Tanaka Minehiko シタール Sitar

1983年民族音楽とりわけ北インド古典音楽の豊かな音楽性・即興性に魅せられシタールをはじめる。1988年渡印、カルカッタにてシタールの巨匠ニキル・ベナルジーの直弟子で演奏家のアミット・ロイ氏に師事。各地で演奏活動を行い、豊かな詩情とワイルドさをあわせもった演奏には定評がある。

また古典の一方では、作曲家としての評価も高く、民族音楽の旋法や歌いまわしを駆使したオリジナル曲を、独自の奏法によって作曲・発表している。そのほか、様々な演奏家や舞踊家と共演、テレビ・ラジオ出演、海外での公演など、精力的な活動を行っている。

CD作品は、自作曲による「ミネラル・ファンタジー」など。その他参加多数。

ホームページ <http://www.minehiko.com>

田中 りこ Tanaka Riko タブラ Tabla

1989年インド各地を旅行中にインド古典音楽の演奏を聴き、そのなかでも打楽器 tabla の豊かな音色と表現力に魅せられ、tabla を学び始める。1995年カルカッタにて、tabla 演奏家オビジット・ベナルジー氏に師事。現在は関西を拠点に、インド音楽を中心とした演奏活動を全国各地にて行なっている。そのほか様々なジャンルのCD作品に参加。



柳田紀美子 Yanagida Kimiko オリッシィ Orissi

1987年奈良女子大学文学部教育学科体育学専攻卒。88年～インド、デリーのH.K.Behera師よりオリッシィダンスの基礎を学ぶ。93～95年、オリッサに滞在、S.C.Swain師の指導を受け、その後毎年渡印、インド芸術大学よりオリッシィ課程修了証(Diploma)取得、インド国営放送テレビに出演、他インド各地で公演。

日本では唐招提寺の文化講座、築地本願寺などで演舞。東京・大阪・神戸にて舞踊クラス主宰。2003年ベルリン国立民族博物館、奈良国立博物館「インド彫刻展」にて演舞。